

15. テック・コミンコ社(Teck Cominco Limited)

1. 企業概要

本社	カナダ・ヴァンクーヴァー
主要事業	非鉄金属鉱山・製錬、石炭
従業員数	5,751 人
決算日	12 月末日
主要関連会社	・ テックゴールド社 (TeckGold Inc.: 100%)

2. 財務状況 (C\$ million)

	2002 年	2001 年	2000 年
売上高 Revenues	2,187	2,379	1,206
当期損益 Net earnings (loss)	30	(21)	85
資産 Total assets	4,958	5,153	5,102
流動資産 Current assets	955	1,044	1,196
負債 Total liabilities	2,438	2,593	3,407
流動負債 Current liabilities	320	435	436
株主資本 Shareholder's Equity	2,520	2,560	1,695
探鉱費 Exploration	34	59	32

3. 主要鉱産物の生産・開発状況

主要鉱産物の生産推移

	2002 年	2001 年	2000 年	2002 年の 世界シェア
銅鉱石 (000 t)	201.5	170.4	83.3	1.5 % (14 位)
亜鉛鉱石 (000 t)	713.9	730.7	208.2	8.2 % (2 位)
亜鉛地金 (000 t)	361.9	290.2	94.0	3.8 % (9 位)
鉛鉱石 (000 t)	125.5	157.5	40.0	4.6 % (5 位)
鉛地金 (000 t) ¹	80.7	55.2	25.8	0.8 % (10 位)
金 (t)	8.9	17.2	15.7	0.3 % (37 位)
ニオブ (kg) ²	-	-	1,085	-
原料炭 (000 t)	6,889	6,671	4,926	-

2000 年の亜鉛鉱石及び鉛鉱石、銅鉱石の生産量が 1999 年に比べて大幅に増加しているが、2000 年にコミンコ社への出資比率をそれまでの 44% から 50.1% に引き上げたことにより、第 4 四半期から、コミンコ社の生産量の全てがテック社の生産量に反映されたことによる。また、亜鉛地金及び鉛地金もコミンコ社による生産である。

¹ 鉛地金のシェアは、2001 年の数字。

² 2001 年 3 月に、ケベック州Niobecニオブ鉱山の 50% の権益をMazarin社に売却した。

4. 沿革

テック社の前身である Teck-Hughes Gold Ltd.社は、当初金鉱床開発を目的として設立された。その後、合併・買収により事業規模を拡大、銅、亜鉛、ニオブなどの非鉄金属のほか、石炭にも事業対象を広げ、総合資源企業として現在に至っている。

1913年、オンタリオ州 Kirkland Lake において Teck-Hughes 金鉱床が発見され、その開発を目的として Teck-Hughes Gold Ltd.社が設立された。Teck は金鉱床の所在地名、Hughes は鉱床発見者の名前に由来する。34年には Lamaque 鉱山が、同社 2 番目の鉱山として操業を開始した。

63年8月、Teck-Hughes Gold Ltd.社は、Lamaque 鉱山の事業主体であった Lamaque Gold Mines Ltd.社（37年設立）および Canadian Devonian Petroleum Ltd.社（51年設立）を合併し、社名を Teck Corp Ltd.社とした。なお、現在の社名（Teck Corp.）は、78年、カナダ会社法の改定に伴い登録されたものである。

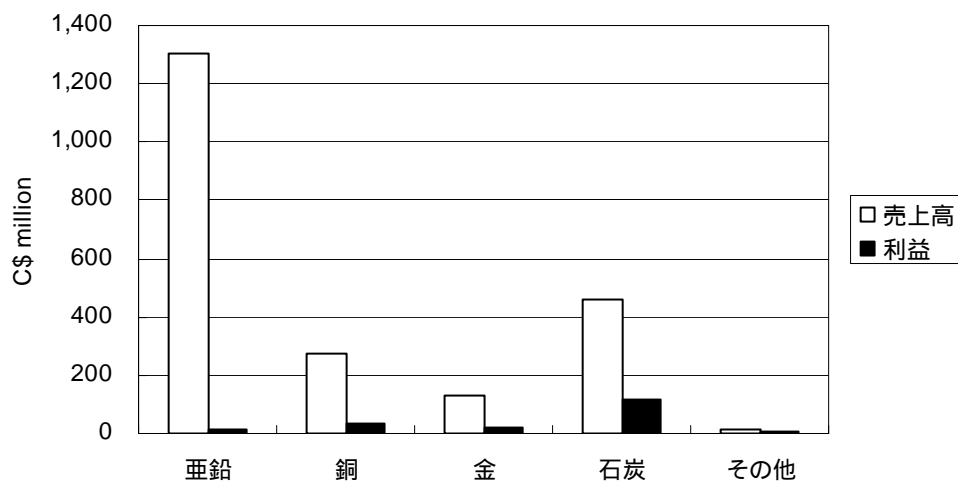
75年、Newfoundland（亜鉛、ニオブ）、Afton（銅）、Highmont（銅、モリブデン）の各鉱山を相次いで開発し、金以外にも対象鉱種を広げた。79年に Brameda Resources Ltd.社、The Yukon Consolidated Gold Corp.社を合併、81年に Afton Mines Ltd.社を統合、さらに 83年には Copperfields Mining Corp.社を合併するなど、合併、買収、資本参加による事業拡大を図っている。

86年、テック社を中心とした、MG 社（Metallgesellschaft AG：独）、MIM 社（豪州）を含むコンソーシアムが、経営の悪化していたコミンコ社の権益を Canadian Pacific Enterprise 社から買収、世界的な鉛・亜鉛の権益を保有するに至った。その後、90年代初めに MG 社が経営破綻したことによって資本提携関係は解消されたが、2000年にはコミンコ社に対する出資比率を 50.1%に引き上げ、2001年7月に合併し、テック・コミンコ社となった。

5. 事業内容

テック社の事業は、金、亜鉛、銅、石炭の 4 グループに分けられる。テック社とコミンコ社の合併前は、テック社の売上高に占める割合は金がもっとも大きかったが、コミンコ社との合併で、ベースメタルの売上高に占める割合が最も高くなった。

2002年部門別売上高と利益



利益は Operating profits

(1) ベースメタル

亜鉛・鉛

レッド・ドッグ鉱山(米国・アラスカ)に権益を保有する。なお、ポラリス鉱山(カナダ・ヌナバット準州)は鉱量枯渇のため2002年9月に閉山した。また、トレイル製錬所(カナダ・BC州)、カハマルキジャ精錬所(ペルー)に権益を保有し、亜鉛地金などを生産している。

2002年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万t	タイプ	品位	生産量
ポラリス(カナダ) Polaris	100	-	UG	- -	79千t Zn 18千t Pb
レッド・ドッグ(米国) Red Dog	100	85.0	OP	18.2% Zn 4.6% Pb	578千t Zn 108千t Pb

2002年主要権益保有製錬所による地金生産

オペレーション名	権益 %	地金生産量 (権益分)
トレイル製錬所(カナダ) Trail Smelter & Refinery	100	269千t Zn 81千t Pb 550t Ag
カハマルキジャ精錬所(ペルー) Cajamarquilla Refinery	82	93千t Zn (76千t)

- ・ レッド・ドッグ鉱山は埋蔵量・精鉱生産量とも世界最大の鉱山で、68年に鉱床が発見され、90年にコミンコ社により生産が開始された。
- ・ トレイル製錬所では、亜鉛価格の低迷及び電力価格の高騰から2001年の生産量は前年の約40%であったが、2002年には1ヶ月間操業停止したものの生産能力(290千t/年)の93%まで生産を回復した。
- ・ カハマルキジャ精錬所は、94年にペルー政府から買収したものである。この際、丸紅(株)が17%の権益を取得している。98年第2四半期に第一期拡張工事が完了し、亜鉛地金生産能力は20%増の120千tとなった。2002年の6月から8月の3ヶ月間、生産を休止したため、2001年に比べて20%弱の生産減となった。
- ・ 米国ワシントン州北東部に位置するPend Oreille 鉛・亜鉛鉱床を開発中である。同鉱床は、推定埋蔵量5.7百万トン、亜鉛品位7.7%、鉛品位1.3%と計算されている。坑内掘りの鉱山となる予定で、粗鉱生産量730千t/年、亜鉛精鉱生産量83千t/年、鉛精鉱生産量13千t/年が見込まれており、精鉱はトレイル製錬所に送られる。

銅

ハイランド・バレー(カナダBC州)、ルービコート(カナダ・ケベック州)³、アンタミナ(ペルー)³の各鉱山に権益を保有する。

³ ノランダ社の章を参照

2002 年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ハイランド・バレー (カナダ) Highland Valley	63.9	295.8	OP	0.42 %	181 千 t (116 千 t)
ルービコート (カナダ) Louvicourt	25	2.6	UG	2.97 % Cu 1.9 % Zn	45 千 t Cu (11 千 t Cu) 20 千 t Zn (5 千 t Zn)
アンタミナ (ペルー) Antamina	22.5	530	OP	1.22 % Cu 1.01 % Zn	331 千 t Cu (74 千 t Cu) 231 千 t Zn (52 千 t Zn)

- ・ ハイランド・バレー鉱山は、BHP ピリトン社との JV であったが、2004 年 1 月に BHP ピリトン社の権益 33.57% の買収を発表した。

(2) 金

100%子会社のテックゴールド社を通してウィリアムズ、ディビッド・ベルの各鉱山(以上、カナダ・オンタリオ州)を保有する。

2002 年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ウィリアムズ (カナダ) Williams	50	32.6	UG、OP	3.0 g/t	12.6 t (6.3 t)
ディビッド・ベル (カナダ) David Bell	50	2.8	UG	10.1 g/t	4.1 t (2.1 t)

- ・ ウィリアムズ鉱山はカナダで第 2 位の産金量を誇る鉱山で、バリック社との JV で生産されている。ディビッド・ベル鉱山もウィリアムズ鉱山と同様にバリック社との JV で、同鉱山の鉱石はウィリアムズ鉱山の処理場で処理されている。

6. 探鉱戦略

(1) 概要

テック・コミンコ社の探鉱活動は、本社ヴァンクーヴァーが中心となり、カナダ及び米国に複数の地域探鉱事務所を置き、さらにメキシコ、ペルー、チリ、ブラジル、オーストラリア、トルコ、ナミビアにもプロジェクトに関連した事務所を設置して行われている。同社は、柔軟かつ開かれた探鉱活動を方針としており、自社探鉱だけでなく、多くのメジャー企業あるいはジュニア・カンパニーと共同で探鉱活動を実施している。

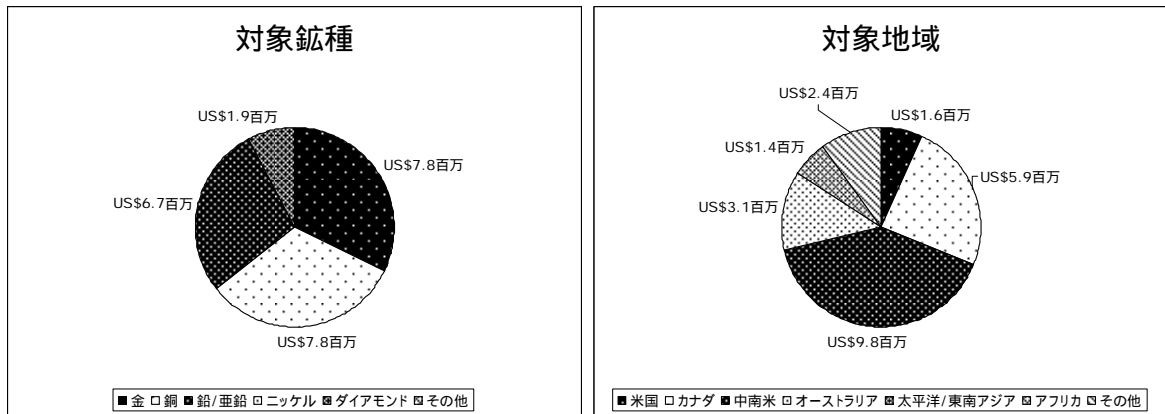
同社の 2002 年の探鉱費は US\$22.4 百万であり、主要非鉄金属企業中第 16 位であった。

(2) 対象鉱種

テック・コミンコ社は亜鉛、銅、金を主な探査ターゲットとしており、それぞれ 30%程度ずつの探鉱予算が充てられている。

(3) 対象地域・探鉱段階

テック社は中南米地域に約 40%の予算を充てているほか、北米に約 30%の予算を充てている。探鉱段階ではグラス・ルーツに US\$20.6 百万 (85%)、事業化調査に US\$2.8 百万 (12%)、鉱山周辺調査に US\$0.8 百万 (3%) が充てられている。



2003年の探鉱予算

(北米)

カナダでは、ブリティッシュ・コロンビア州、オンタリオ州、ヌナブット準州で金及びベースメタルを対象にグラス・ルーツの探鉱を実施している。

ウィリアムズ鉱山やディビッド・ベル鉱山がある Hemlo 鉱床帯の東方でジュニア・カンパニーと金をターゲットとした探査を実施しているほか、ヌナブット準州の High Lake 地区でジュニア・カンパニーと塊状硫化鉱の探鉱を実施している。

(中南米)

メキシコ・サカテカス州の San Nicolas 銅-亜鉛塊状硫化鉱床の権益を 79% 保有する。同鉱床は鉱量 73 百万 t、銅品位 1.3%、亜鉛品位 1.9%と見込まれており、2002 年 1 月に F/S を終了している。また、メキシコ・シティ南西方の El Limon 金鉱化帯でよい探鉱結果が得られている。

他の中南米地域では、チリ、ペルー、ブラジル、アルゼンチンで銅や金を対象とした初期探鉱を実施している。

(その他)

トルコ、ナミビアで亜鉛を対象とした初期探鉱を実施している。